



第35回 愛媛形成外科研修会

抄録集

日 時 平成 27 年 6 月 27 日（土） 17 時 00 分～
場 所 四国がんセンター 新棟 3 F 研修室①②
愛媛県松山市南梅本町甲 160 TEL: 089-999-1111

当番世話人 愛媛大学医学部附属病院

形成外科 中岡 啓喜

第 35 回 愛媛形成外科研修会

研修会について

1. 参加受付は、16 時 30 分より会場で行います。
※お車でお越しの方は、一律 100 円の駐車料金がかかります。
※駐車場が少ないので、誠に申し訳ございませんが公共の交通機関をご利用下さい。
2. 参加費として 2,000 円を受付にて申し受けます。
3. 演者でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. Section I・II での討論時間は、一題あたり 3 分～5 分を予定しております。
5. PC は Windows7、Power Point 2010 を使用しての発表になります。
(当日は、USB メモリーあるいは PC 本体を持参して下さい。)

会 歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 1 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成 10 年 7 月 4 日	15 名
第 2 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成 10 年 12 月 5 日	17 名
第 3 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成 11 年 6 月 19 日	20 名
第 4 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 11 年 11 月 27 日	19 名
第 5 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 6 月 24 日	17 名
第 6 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 12 月 9 日	20 名
第 7 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 6 月 23 日	23 名
第 8 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 12 月 8 日	23 名
第 9 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 6 月 8 日	27 名
第 10 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 12 月 14 日	27 名
第 11 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 6 月 28 日	25 名
第 12 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 12 月 13 日	25 名
第 13 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 6 月 26 日	26 名
第 14 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 12 月 4 日	29 名
第 15 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 6 月 18 日	31 名
第 16 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 12 月 10 日	35 名
第 17 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 6 月 24 日	31 名
第 18 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 12 月 9 日	26 名
第 19 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 6 月 16 日	37 名
第 20 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 12 月 15 日	30 名
第 21 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 6 月 14 日	30 名
第 22 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 12 月 6 日	30 名
第 23 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 6 月 27 日	32 名

第 24 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 12 月 12 日	28 名
第 25 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 6 月 19 日	34 名
第 26 回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 12 月 11 日	30 名
第 27 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 6 月 18 日	31 名
第 28 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 11 月 26 日	25 名
第 29 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4 階 末広	平成 24 年 6 月 23 日	34 名
第 30 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 24 年 12 月 1 日	26 名
第 31 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 25 年 6 月 22 日	36 名
第 32 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2 階 楓の間	平成 25 年 11 月 30 日	30 名
第 33 回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 26 年 6 月 21 日	32 名
第 34 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 新館カファレンス会議室	平成 26 年 11 月 29 日	32 名
第 35 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 27 年 6 月 27 日	

プ ロ グ ラ ム

Section I (17:00~17:25) 座長： 四国がんセンター 服部千春先生

1. 口唇周囲熱傷瘢痕拘縮に対しリップバンドを使用し軽快した 2 症例 (5 分)
愛媛県立中央病院 形成外科 中川 浩志 他
2. 恥骨骨折からフルニエ壊疽に罹患した 1 例 (5 分)
松山赤十字病院 形成外科 山崎 裕行 他
3. 足部手術における坐骨神経ブロックの利用 (3 分)
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 三宅 啓介 他

Section II (17:25~18:00) 座長： 県立広島病院形成外科 永松将吾先生

4. 乳房人工物再建における感染時の対応方法の検討 (5 分)
四国がんセンター 形成外科 服部 千春 他
5. 最近経験した乳房再建用組織拡張器のトラブル 2 例 (5 分)
県立広島病院 形成外科 永松 将吾 他
6. 顔面半側肥大症に対し上下顎骨切り、頬骨骨切り術を施行した 1 例 (5 分)
愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 他
7. Eccrin spiradenocarcinoma の 1 例 (5 分)
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹 他

Section III (18:00~18:25) 座長： 松山赤十字病院 形成外科 山崎裕行先生

8. 経皮的冠動脈形成術後に右肩甲骨に生じた放射線性骨壊死の 1 例 (5 分)
鹿児島医療センター 皮膚腫瘍科・皮膚科 青木 恵美 他
9. マムシ咬傷 24 例の検討 (5 分)
県立南宇和病院 皮膚科 森戸 浩明
10. 「線状瘢痕拘縮に Z 形成術は必要ない」・・・のでは?? (5 分)
皮フ科・形成外科 はらだクリニック 原田 伸

総会 (18:30~18:45)

特別講演 (18:45~19:45) 座長： 愛媛大学医学部附属病院 形成外科 中岡 啓喜 先生

「顔面の再建に使える局所皮弁のヴァリエーション」

講師： 札幌医科大学 形成外科教授 四ッ柳 高敏 先生

共催： 松山形成外科医会、愛媛県医師会形成外科医会

Section I (17:00~17:25) 座長: 四国がんセンター 服部千春 先生

1. 口唇周囲熱傷瘢痕拘縮に対しリップバンドを使用し軽快した 2 症例

愛媛県立中央病院 形成外科

○中川 浩志、小林 一夫、濱田 裕一、徳永 和代、尾崎 絵美、石野 憲太郎

(5 分)

口唇周囲の熱傷は治癒が遷延すると開口制限をきたし、食事や会話の妨げになることがある。また、手術を行っても整容的に満足されない場合もある。今回われわれは口唇周囲の熱傷瘢痕拘縮に対しリップバンドを使用し軽快した 2 症例を経験した。

症例 1 は 53 歳、男性。爆発により顔面のほか、広範囲熱傷を受傷。当院皮膚科で保存的加療を行っていたが、受傷後約 3.5 ヶ月で開口制限をきたした。当科紹介となり、直ちにリップバンドを使用した。

症例 2 は 58 歳、男性。車内火災で顔面のほか、広範囲熱傷を受傷。当院皮膚科で治療されるが顔面は保存的加療。受傷 4 ヶ月で当科に紹介後、口唇周囲の植皮術を施行し、植皮生着後速やかにリップバンドを使用した。

両症例とも開口制限等の症状は軽快し、良好な結果を得たため報告する。

2. 恥骨骨折からフルニエ壊疽に罹患した 1 例

松山赤十字病院 形成外科

○山崎 裕行、庄野 佳孝

(5 分)

症例は 88 歳女性。右恥骨骨折受傷後 11 日目に、38℃台の熱発と右外陰部の発赤腫脹にて当院紹介。フルニエ壊疽にて同日デブリードマン施行。ESBL 産生大腸菌が検出されたため抗生剤投与と局所処置を続け、人工肛門増設と追加のデブリードマンを行ったが、肝機能障害にて抗生剤投与を中止。熱発が続いたため MRI で精査したところ左恥骨骨髓炎が認められ、MRSA も検出されたため腐骨除去と VCM・CMZ 投与を行い炎症は消褪した。文献的考察を加えて報告する。

3. 足部手術における坐骨神経ブロックの利用

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○三宅啓介、森秀樹、戸澤麻美、村上達郎、中岡啓喜

(3 分)

当院ではターニケットを必要としない足部手術においてエコーガイド下に坐骨神経ブロックを使用している。合併症のために全身麻酔が高リスクとなる症例、抗血小板薬などのために腰椎麻酔が行えない患者に対して良い適応となる他、局所麻酔の手術枠を有効に活用できるメリットがある。ブロックの実際を含めて発表する。

Section II (17:25~18:00) 座長： 県立広島病院形成外科 永松将吾 先生

4. 乳房人工物再建における感染時の対応方法の検討

四国がんセンター 形成外科

○ 服部千春 河村進 時吉貴弘

(5分)

乳房人工物再建において、感染時の基本的な対応方法は抜去とされてきたが、抜去しない処置で感染を制御できる場合もある。

感染時に人工物を抜去するか、抜去しない処置を選択するかのジレンマがあるが、現在人工物感染時の対応方法として確立されたものはない。

2000年1月～2015年1月の期間における当院での人工物乳房再建術後の感染症例を調査し、対応方法と転帰から得られた知見を報告する。

5. 最近経験した乳房再建用組織拡張器のトラブル2例

県立広島病院 形成外科¹⁾、広島大学病院 形成外科²⁾、県立広島病院 整形外科³⁾○永松将吾¹⁾、奥原裕佳子¹⁾、横田和典²⁾、望月 由³⁾

(5分)

近年普及が進んでいる乳房再建用組織拡張器（以下TE）のトラブル2例につき報告する。

45歳、女性。左乳癌にて皮下乳腺全摘術とTE挿入術を行った。注入拡張を行っていたが、ある時点からTEが拡張せず、徐々に減量するようになった。

54歳、女性。右乳癌にて皮下乳腺全摘術とTE挿入術を行った。TE拡張を終了し人工乳房への入れ替え待機中に、内科医の指示によりMRI検査施行、TEのポート部が破損を生じた。

6. 顔面半側肥大症に対し上下顎骨切り、頬骨骨切り術を施行した 1 例

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野 憲太郎、小林 一夫、中川 浩志、濱田 裕一、徳永 和代、尾崎 絵美

(5 分)

症例は 17 歳、女性。生来左顔面半側肥大で頬骨、頬骨弓の突出がある患者で以前より患側の脂肪吸引、余剰皮膚の切除、SMAS の引き上げを数度施行した。しかし成長に従って突出は目立つようになった。今回、成長が止まったため、Le Fort I 骨切り術、頬骨骨切り術で突出部を減量し、下顎骨切り術で咬合を合わせ延長した。良好な結果を得た症例を経験したため報告する。

7. Eccrin spiradenocarcinoma の 1 例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○森 秀樹、戸澤麻美、三宅啓介、村上達郎、中岡啓喜

(5 分)

症例は 56 歳、男性。10 年前より左腰部に 1cm 大の結節を自覚していた。3 ヶ月前より特に誘因なく結節が増大し、痛みを伴うようになってきたため近医外科で摘出術を受けた。病理組織結果は Eccrine spiradenocarcinoma で断端陽性であったため当科紹介されて拡大切除術を行った。術後 1 か月目の PET-CT および 6 か月後の造影 CT では明らかな再発・転移の所見を認めなかったが、術後 8 か月目ごろより腰痛が出現し PET-CT で多発骨転移および多発肺転移を認め、脊椎転移に対して緊急放射線治療を行った。

Section III (18:00~18:25) 座長：松山赤十字病院 形成外科 山崎裕行 先生

8. 経皮的冠動脈形成術後に右肩甲骨に生じた放射線性骨壊死の 1 例

鹿児島医療センター 皮膚腫瘍科・皮膚科¹⁾、今給黎総合病院 形成外科²⁾○青木恵美¹⁾、松下茂人¹⁾、高木信介²⁾

(5 分)

52 歳、男性。左冠動脈前下行枝の狭窄に対して経皮的冠動脈形成術(PCI)を施行された 1 か月後から右上背部に難治性潰瘍を形成した。壊死した僧帽筋と菱形筋を部分切除して広背筋皮弁で被覆したが、術後に肩甲骨内側縁に沿って瘻孔を形成した。保存的治療に抵抗性だったため、初回手術の 1 年後に壊死骨を全切除し、術後 1 ヶ月の時点で炎症の再燃は見られていない。PCI による放射線障害の危険因子と問題点について考察する。

9. マムシ咬傷 24 例の検討

県立南宇和病院 皮膚科

○森戸浩明

(5 分)

10 年間で、男性 13 例、女性 11 例の計 24 例マムシ咬傷を治療した。血清は、来院が遅れた人、腫脹の進行が急、受診時血小板減少傾向にある人に投与を検討し、皮内反応が強陽性でない 7 例に使用した。代表的 3 症例を供覧する。

10. 「線状癒痕拘縮に Z 形成術は必要ない」・・・のでは??

皮膚科・形成外科 はらだクリニック

○原田 伸

(5 分)

肥厚性癒痕は表皮バリアー機能不全状態にあり、それに伴う機械的刺激が真皮の線維芽細胞の病的収縮をもたらしている。病的収縮によりおこる拘縮の原因は肥厚性癒痕そのものにあり、周囲の正常皮膚にあるわけではない。よって肥厚性癒痕を予防できれば Z 形成術は不要である。

総会 (18:30~18:45)

特別講演 (18:45~19:45) 座長：愛媛大学医学部附属病院 形成外科 中岡 啓喜 先生

「顔面の再建に使える局所皮弁のヴァリエーション」

講師：札幌医科大学 形成外科教授 四ッ柳 高敏 先生

共催：松山形成外科医会、愛媛県医師会形成外科医会

御略歴

四ッ柳 高敏 (よつやなぎ たかとし) 先生

昭和	63年	3月	弘前大学医学部卒業 医師免許取得
平成	4年	3月	弘前大学大学院医学研究科終了 博士(医学)授与
平成	4年	4月	弘前大学医学部附属病院形成外科医員
平成	4年	10月	弘前大学医学部附属病院形成外科助手
平成	5年	4月	弘前大学医学部附属病院形成外科講師
平成	11年	7月	弘前大学医学部形成外科学講座助教授
平成	17年	2月	札幌医科大学医学部形成外科学教授
平成	17年	4月	弘前大学医学部学部長講師併任
平成	19年	9月	近畿大学医学部形成外科非常勤講師併任

(学会、社会活動など)

日本形成外科学会会員	専門医 (平成 7 年～)	評議員 (平成 11 年～)
日本熱傷学会会員	専門医 (平成 12 年～)	評議員 (平成 11 年～)
日本頭蓋顎顔面外科学会	専門医 (平成 20 年～)	評議員 (平成 18 年～)
日本創傷外科学会	専門医 (平成 25 年～)	評議員 (平成 22 年～)
日本手術手技学会	評議員 (平成 23 年～)	
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会	評議員 (平成 24 年～)	

愛媛形成外科研修会 総会(18:30～)

1. 次回研修会の日程
2. 開会報告
3. 形成外科新専門医制度について
4. その他